

居場所コム

プログラム概要 : こまじいのうちのプログラム補助、環境整備、成果発表

実習先 : こまじいのうち、こまびよのおうち(東京都文京区本駒込)

実習先情報 : 懐かしい昭和の雰囲気あふれる民家「こまじいのうち」は、地域みんなの「居間」として、東京都文京区本駒込の2013年にオープンしました。「もてあましていた空き家を地域の人みんなに活用してほしい」という人の思いが、一赤ちゃんからお年寄りまで、地域みんながゆるくつながり、気軽に憩える「居場所」の実現につながりました。

参加人数 : 2名

学部学科 : 社会福祉学科、政治学科

実習期間 : 令和5年8月16日～9月19日

本学担当教員 : 武田憲明(教育学科)

○居場所コムを選んだ理由

高齢者の孤立化や子育てをする母親・父親の孤立化が問題になっており、その問題を解決するためにも、「居場所コム」の活動を通してたくさんの人と関わり学びを深めたいと思ったからです。また暮らしやすい地域とはどのような特徴があるのかを知ること、自分の住む地域にも活かす事ができると思ったからです。

○実習内容

プログラム補助、環境整備、パネルシアター、成果発表

こまじいのうち

〈子ども食堂〉

子ども食堂のお手伝いを行い、スタッフの皆さんと協力して栄養満点のお弁当を作りました。コロナ前は、お弁当ではなくこまじいのうちでみんなでご飯を囲んでいたことも分かりました。独りで暮らしている人も、この食堂では誰かと一緒にご飯を食べることができるのが良いと思いました。

また、野菜のないバランスの偏った食事が多くなっている中でこのような栄養バランスの整った食事が食べられるのは身体の健康にも心の健康にも繋がってくると感じました。

〈社協とのつながり〉

こまじいのうちにいらっしゃる問題を抱えた方への専門的なサポートを社協を通じて行ったり、社協の方がこまじいのうちなどの居場所を提供したりしており、社協との深いつながりを知る事ができました。

また、月一回行われているスタッフ会議に参加し、先月の運営内容を報告し振り返り課題がある場合は改善案を出すなどして、より良い運営を行うことを目的にしていることが分かりました。こまじいのうちが、誰でも気軽にふらっと立ち寄れて、地域の方に愛される場所になっている背景には、このようなたくさんの方の支えから成り立っていることを学びました。

〈草むしり・ペンキ塗り〉

実習の後半では、草むしりやペンキ塗りなどの環境整備も行いました。このような環境整備を行うことで、利用者の方が快適に過ごす事ができると感じました。こまじいのうちやこまびよのおうちは、みんなの居場所であるため常に清潔で過ごしやすい環境にしておく必要があると感じました。

こまびよのおうち

〈子育て支援〉

こまびよのおうちでは、保育士や栄養士を含めたスタッフがいるため子育てについての相談が気軽にできるということが分かりました。初対面の保護者同士でもすぐに仲良くなり子育てに関する情報を交換しており、こまびよのおうちのようなみんなの子育て広場の雰囲気が暖かいことや、相談しやすい環境にあることが居心地の良さに繋がっていると感じることができました。

また、子育て広場などを利用して他の保護者と交流することで地域のつながりができると思いました。近年では、地域の希薄化により子育ても孤立化傾向になりがちですが、子育て中の人を受け止めながら子育て支援を行うこまびよのおうちは利用する方の心の支えになっているのではないかと思います。

〈パネルシアター〉

私たちは、こまびよのおうちでパネルシアターを行いました。練習の時は、先ず歌詞と音程を覚えることを頑張りました。練習の時から何度も歌い、声の高低を工夫したりしました。パネルシアターは、貼るタイミングや配置などが難しく、子ども側から見て綺麗な配置になるようにふたりでアドバイスし合いました。本番では、緊張しましたが子どもたちの楽しそうな顔を見ることができ嬉しかったです。

○まとめ

ひとつの居場所を通して、人と人との繋がりができることは心身の健康にも繋がりと、相談できる相手がいることでより暮らしやすい地域になることが分かりました。また、多世代交流があることで高齢者の孤立化を防ぎ、地域との繋がりを持つことにより地域が活性化することを学びました。

居場所コムの実習における交流は、私たちの世代がこれからの日本の社会や地域のあり方を考えるきっかけづくりになりました。高齢者と若い世代の連携を深め、希薄化している地域のつながりをすべての世代で再生するという観点について深く考えることのできる20日間でした。

